

# 平成 27 年度 学習評価の在り方について

## 1, 学習評価について

学校が、学期末や学年末に通知票を通じて、生徒や保護者の皆様に示す学習評価については、以下の2つの項目あります。

1つ目の項目は、**観点別学習状況の評価**です。これは、学習指導要領に示す「目標」の具現化に対する生徒一人ひとりの学習状況の達成度をみる「目標に準拠した評価」であり、「関心・意欲・態度」・「思考・判断・表現」・「技能」・「知識・理解」の4つの観点(国語科は5つの観点)を、「A・B・C」で評価します。

2つ目の項目は、**評定**です。これは、観点別学習状況の評価を基に、総合的に判断し、「5・4・3・2・1」で評価します。

本校では、これまでも日頃の授業を通して、学習指導要領に示す内容が確実に定着するよう、生徒一人ひとりの学習状況を的確に把握し、学習指導の改善に活かすための学習評価を行ってきました。今年度は、さらに充実を図るため、学習評価の在り方を一部見直すことにしました。これまで同様、各教科において観点別学習状況の評価を基に評定をつけることには変わりはありませんが、今年度から、すべての教科が共通した方法で、観点別学習状況の評価を基に、評定への総括を行っていきます。

なお、特別活動、道徳及び総合的な学習の時間における評価については、これまで同様、学校生活における活動や行動の記録、学習活動等を基に記述によって評価を行います。

## 2, 具体的な学習評価の方法(流れ)

### (1) 観点別学習状況の評価

#### ① 評価資料の分類

各教科における学習活動への取組、課題や宿題、単元テスト、定期テスト、技能テスト等の評価資料から、生徒一人ひとりの「達成度」をA・B・Cの3段階で評価します。

**※定期テストは1つの資料とみなし、定期テストを中心に評価を行うことはしません。**

評価の観点	評価資料
関心・意欲・態度	学習活動への取組(授業態度など)、ノートやワークシートの内容、課題や宿題への取組、自己評価カード等の内容、技能テストなど
思考・判断・表現	学習活動への取組(授業態度など)、ノートやワークシートの内容、課題や宿題の内容、小テスト、単元テスト、定期テスト(中間・期末)、作品づくり、鑑賞など
技能	小テスト、単元テスト、定期テスト(中間・期末)、実技テスト、作品づくりなど
知識・理解	課題や宿題の内容、小テスト、単元テスト、定期テスト(中間・期末)など

#### ② 各評価資料に対する観点別評価の判定基準

判定基準	評価	※参考 達成率(%)
十分満足できる	A	80%~100%
概ね満足できる	B	40%~79%
努力を要する	C	0%~39%

### (2) 観点ごとの総括

学期末や学年末では、それまでに蓄積した資料の評価を基に観点ごとの総括を行います。

(3) 評定への総括…今年度、大きく変わったところです。

観点別学習状況評価の総括を基に、A, B, C の組み合わせ(出現パターン)で評定への総括を行います。

・国語科以外の教科

観点別学習状況評価				評定
A	A	A	A	5
A	A	A	B	4
A	A	A	C	4
A	A	B	B	4
A	A	B	C	3
A	A	C	C	3
A	B	B	B	3
A	B	B	C	3
A	B	C	C	3
B	B	B	B	3
B	B	B	C	3
A	C	C	C	2
B	B	C	C	2
B	C	C	C	2
C	C	C	C	2
C	C	C	C	1

・国語科

観点別学習状況評価					評定
A	A	A	A	A	5
A	A	A	A	B	4
A	A	A	A	C	4
A	A	A	B	B	4
A	A	A	B	C	4
A	A	B	B	B	4
A	A	A	C	C	3
A	A	B	B	C	3
A	A	B	C	C	3
A	A	C	C	C	3
A	B	B	B	B	3
A	B	B	B	C	3
A	B	B	C	C	3
A	B	C	C	C	3
B	B	B	B	B	3
B	B	B	B	C	3
B	B	B	C	C	3
A	C	C	C	C	2
B	B	C	C	C	2
B	C	C	C	C	2
C	C	C	C	C	2
C	C	C	C	C	1

例: A さんの評定のつけ方(4 つの観点の場合)

- ・関心・意欲・態度 → A                      ・思考・判断・表現 → B
- ・技能 → A                                      ・知識・理解 → B

A さんの観点別学習状況の評価が

『AABB』なので、評定は『4』になります。

3. 本校の学習評価に期待できること



生徒

- ・毎日の授業の学習活動が評価につながるため、やる気をもって学習に取り組むことができる。
- ・観点別の学習評価を知ることにより、自分がどこまで達成できているのかを確認することができ、努力を要する内容の改善に役立てることができる。

- ・子ども達の学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直し、授業改善や個に応じた指導の充実を図ることができる。
- ・すべての教科で、共通した学習評価の方法により、子ども達や保護者の皆様から信頼を得ることができる。



教師



保護者

- ・すべての教科において、共通した評価方法であるため、子どもの学習の状況が把握しやすい。
- ・観点別の学習評価で、子どもの頑張りや課題を把握することにより、家庭における学習を促すことができる。